

本市生涯学習推進のための指針
～人生100年時代に活躍し続けるために～

令和3年3月

名古屋市教育委員会生涯学習部生涯学習課

はじめに

平成24年「長寿社会における生涯学習の在り方について～人生100年　いくつになっても学ぶ幸せ「幸齢社会」～」(文部科学省　以下、「幸齢社会」)では、すべての人々が人生100年時代を見据え、「自ら学んだことによって得られた知識や経験を社会に還元しつつ、よりよい社会をつくる主役となるよう新しい価値観を広げていくこと」が生涯学習の役割の一つとして求められています。

本市では、平成27年の社会教育主事会において、国や本市における方針を基に、生涯学習センターを中心に事業のあゆみを振り返るとともに、他都市の事例を参考に、生涯学習推進の在り方を「まなぶ」「つながる」「いかす」の段階に整理して、「名古屋市生涯学習推進グランドデザイン」(以下、「グランドデザイン」)を提案しました。

それから5年の間に、国においては、平成30年「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」(中央教育審議会)が策定され、人生100年時代には「全ての人が元気に活躍し続けられる社会」をつくる必要があり、その重要な鍵を握るのは、生涯学習社会の実現にあることが示されました。また、社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりの重要性についても述べられました。そして、令和2年「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」(中央教育審議会)では、人生100年時代は、より多様で豊かな生き方が指向されることや新しい時代の学びの在り方について述べられています。学びを通して、新しい価値観を広げ続け、地域や社会において活動をし続けること、すなわち「活躍し続けること」が大切であると考えます。

本市においても、平成31年「第3期名古屋市教育振興基本計画」(名古屋市教育委員会)が策定され、大切にする3つの視点として、人生(ライフキャリア)の支援、質の高い学びの促進、多様な主体との連携・協力を挙げています。また、全区の生涯学習センターで指定管理者制度が導入され、社会教育主事を取り巻く状況も大きく変化してきています。

このように、国・本市の動向、本市の生涯学習推進の体制が変化している流れの中、本市の生涯学習においても、どのような方向性をもって推進していくのか、とらえ直していくことが求められています。

そこで、積極的に生涯学習に取り組み、地域や社会で活躍し続ける市民を育成していくためにはどのような支援が必要になるのか、国の動向・本市の生涯学習推進のあゆみを整理するとともに、市民意識の変容を踏まえた本市生涯学習の現状分析を通して、今後の本市生涯学習推進のための指針を提案します。

本研究を、今後の生涯学習推進のための方策を考える際の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

令和3年3月

名古屋市教育委員会生涯学習部生涯学習課

目 次

はじめに

I	生涯学習をめぐる状況	1
1	国の動向	
(1)	国の答申や計画	
(2)	国の方向性	
2	本市の動向	
(1)	本市の教育振興基本計画	
(2)	本市生涯学習センターのあゆみ	
①	生涯学習センターのあゆみ	
②	本市生涯学習事業の移り変わり	
(3)	本市の方向性	
II	本市の生涯学習の現状分析	7
1	市民意識の変容	
(1)	「まなぶ」について	
(2)	「つながる」について	
(3)	「いかす」について	
2	現状分析を振り返って	
III	本市生涯学習推進のための指針	12
1	つなげることによる支援	
2	「アウトプット」をする場や機会の提供	
3	学習に対する評価	
	おわりに	16

資料編

I 生涯学習をめぐる状況

まずは、国の動向や本市の動向について、整理をしていく。

1 国の動向

(1) 国の答申や計画

国の答申や計画において求められていることを、「グランドデザイン」【資料1】で示した段階である、「まなぶ」「つながる」「いかす」に該当する内容ごとに分けて、整理した。

答申・計画\項目	まなぶ	つながる	いかす
① 「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」 (平成25年中央教育審議会) 【資料2】	〈方向性〉地域住民の自立に向けた意識を高め、協働による地域づくりの実践に結びつくような環境を醸成していくこと		
	・個人の自立(人づくり)に向けた学習 ・学習の機会が得られ、学習を継続できること	・地域住民同士が学び合い、教え合う相互学習を通じて、人との絆を強くする(絆づくり)	・学習成果を社会生活や職業生活に「生かす」(地域づくり)
② 「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」 (答申) (平成28年中央教育審議会) 【資料3】	〈方向性〉「学び」の場の整備・充実、学習成果が適切に評価され、活用できる環境整備による学びと活動の循環形成 「学び」と「活動」の循環を形成し、その橋渡しをすること		
	・「ノンフォーマル教育」各種課題に対応する多様な学習機会を充実させることで一人ひとりの可能性を高める ・地域課題や社会的課題の解決に資する学習機会の充実が必要	・学習活動をさらなる学び、活動に広げるため、学習者同士のネットワーク化・学習コミュニティの形成を進める ・学習と活動を「つなぐ」ことの提唱	・学校教育、社会教育、自主的な学習、それぞれの学習・活動の成果が蓄積・評価され、企業・学校・地域等での社会的な活用につなげる
③ 「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」 (平成30年中央教育審議会) 【資料4】	〈方向性〉学びのきっかけとなる機会づくり、多様な主体同士の連携・協働の推進、多様な人材の幅広い活躍の促進による、開かれ、つながる社会教育の実現		
	・自主的・自発的な学習による知的欲求の充実、自己実現・成長(人づくり)	・住民の相互学習を通じ、つながり意識や住民同士の絆の強化(つながりづくり)	・住民の主体的参画による地域課題解決(地域づくり)

答申・計画\項目	まなぶ	つながる	いかす
④ 「第3次教育振興基本計画」 (平成30年閣議決定) 【資料5】	〈方向性〉人生100年時代を見据え、全ての人が、生涯を通じて自らの人生を設計し活躍することができるよう、必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習を推進し、「学び」と「活動」の循環形成をすること 地域社会の活力の維持・向上を図るため、人々の暮らしの向上と社会の持続的発展に向けた学びを推進すること		
	・全ての人が生涯を通じて自らの人生を設計し、学び続ける ・生涯にわたり必要な知識や技能・技術を学ぶ ・若者から高齢者まで多様な世代が学び始めるきっかけづくり ・人々の暮らしの向上と社会の持続的発展に向けた地域課題解決のための学び	・知的・人的ネットワークを構築し、人生の可能性を広げる ・仲間とつながりながら楽しく学び、活動できる環境	・生涯にわたり必要な知識や技能・技術を学び、活用する ・(「つながる」ことで人生の可能性を広げ)新たなステージで活躍する ・地域コミュニティの維持・活性化への貢献 ・学習成果の可視化
⑤ 「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」 (令和2年中央教育審議会以下、「第10期」) 【資料6】	〈方向性〉講義形式で知識をインプットする「学び」だけでなく、疑問を持ち、課題を見つけ、考えを発信し、他者と共に考え、新たな考えを創造することも「学び」の重要な要素		
	・マルチステージの人生において、必要な時に必要な学びを通じた成長 ・必要な資質・能力等を更新できる学びの場が重要	・ICT等の技術を活用した新たな取り組みの推進 ・多様な主体が連携・協働し共に学び合うこと、多世代交流の推進	・生涯学習の成果を実際の活動に生かすとともに、その活動を踏まえて更に学びを深め広げていくという学びと活動の循環が重要

(2) 国の方向性

国の動向や計画を振り返ると、人生100年時代に活躍し続けるためには、以下のことが求められていると言える。

- ・ 「つながる」ことによる、さらなる学び・活動への展開
- ・ 「つながる」ことによる、楽しい学びや活動ができる環境づくり
- ・ 学習成果を社会(地域)に「いかす」こと
- ・ 学習履歴・成果の評価・活用
- ・ 学びと活動の循環形成

また、「まなぶ」については、「インプット」だけでなく「疑問を持つ」ことも重要な要素であるという「第10期」の内容に着目すると、「インプット」を行った後、学習者が新たな疑問や追究したいことをもち、更に学習を進めて知識を広げようとする行為があると考えられる。また、学んだことを整理し、知識を定着させようとする行為があると考えられる。本研究では、「まなぶ」段階において、「インプット」を行った後に起こると考えられる、これらの行為を「アクティビティ(活動)」と定義する。

そして、「第10期」における、「考えを発信する」、「他者とともに考える」という内容に着目すると、インプットだけでなく、その成果を「アウトプット」(出力・発信)する活動も重要であると考ええる。「いかす」については、「アウトプット」したことに対して振り返る行為が起これ、現状を把握できたり、課題が見つかったりして、新たな学びへの気付きを得られると考える。本研究では、「アウトプット」を行った後に起こると考えられる行為を「リフレクション」と定義する。

2 本市の動向

次に、本市の動向について、整理をしていく。

(1) 本市の教育振興基本計画

答申・計画\項目	まなぶ	つながる	いかす
① 「名古屋市教育振興基本計画」 (平成27年 名古屋市教育委員会) 【資料7】	〈方向性〉生涯を通じて学びを継続できるようにする その成果を生かし社会で活躍できるよう支援する		
	・ 多様なニーズに応えられる学習の機会や場	・ 市の事業において、市民が学んだ成果を生かし、関わりをもつことができる機会の提供	
② 「第3期名古屋市教育振興基本計画」 (平成31年 名古屋市教育委員会) 【資料8】	〈方向性〉指定管理者(民間事業者)のノウハウを活用した事業展開を進める、高齢者が中心となっている利用者層の拡大		
	・ 生涯を通して学ぶ場や機会があること	・ 自立した人間として、主体的に判断し、様々な人と協働しながら新たな価値を創造する	・ 学びの成果を生かし、社会で活躍している

(2) 本市生涯学習センターのあゆみ

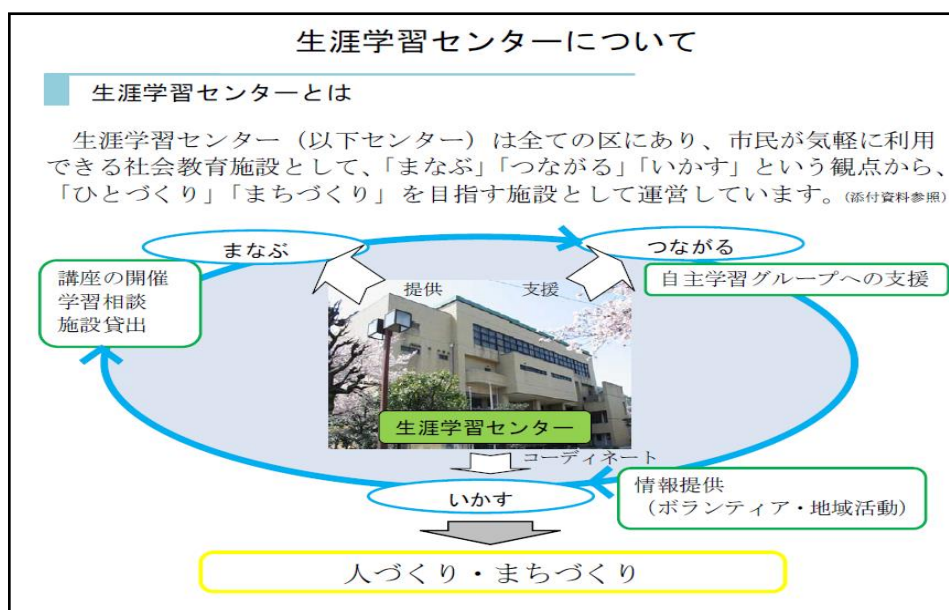
① 生涯学習センターのあゆみ

あゆみについて、関係分を社会教育センターの開館時から年度ごとに整理した。

年 度	本市生涯学習センターに関する内容
昭和50年	・ 千種社会教育センター 開館 ↓ 各区で社会教育センターが開館する
昭和60年	・ 中村・西社会教育センター 開館（16区すべてに設置）
平成6年	・ 「名古屋市生涯学習推進基本指針」策定
平成9年	・ 社会教育センターから「生涯学習センター」へ名称が変更 ※行政としての立場を明確にした学習機会を提供
平成12年	・ 市教委所管だったセンターが区役所に編入 ・ 名古屋市生涯学習センター条例(名古屋市条例第38号)施行 ※センターの設置目的が、「生涯学習の振興を図るとともに、市民の交流と地域活動の発展に資すること」とされた ※「公民館」から「社会教育施設」へと位置づけが変更
平成16年	・ 行政評価により、講座・事業の見直し ※行政課題に特化した学習機会を提供
平成26年	・ 中村・熱田・名東生涯学習センターで指定管理者制度を導入 ※導入後のセンターは、区役所所管の施設から市教委所管の施設へ
平成30年	・ 16区全ての生涯学習センターで指定管理者制度を導入

生涯学習センターは、国や市の施策など社会の要請に対応しながら、施設管理や運営を行ってきた。

そして、「まなぶ」「つながる」「いかす」については、生涯学習センターが「ひとづくり」「まちづくり」をめざす施設であることを説明する際の「観点」として、以下のような図で示している【図1】。



【図1 生涯学習センター説明資料】

また、生涯学習センター指定管理者募集要項では、「まなぶ」「つながる」「いかす」の語を用いて、以下のように施設の設置目的及び役割の説明がされている。

生涯学習センターは、
生涯学習の振興を図ることを主たる目的としつつ、
区との連携をはじめ地域との結びつきを強めることにより、市民の交流と地域活動の発展を促すことを目的としています。

また、生涯学習社会の実現に向けて、地域に密着した市民の自主的な学習活動を促進するために、

「まなぶ」(学習のきっかけづくり)、

「つながる」(他者との交流を図りながら学習を深める)、

「いかす」(学習成果を地域社会に還元する)の段階を経ながら、

学びが連続的・継続的に広がる「ひとづくり」「まちづくり」を生涯学習推進の根幹として事業を展開しています。

(「生涯学習センター指定管理者募集要項」より、一部編集のうえ、抜粋)

② 本市生涯学習事業の移り変わり

本市生涯学習事業について、平成27年の社会教育主事会で挙げられている事業、中でも生涯学習センターで行われる事業を中心に、その移り変わりについて整理をした。

○ 「まなぶ」について

挙げられている事業	その移り変わり
センター主催講座・事業	・分野・領域については、変更なし。「なごや学」「親学・青少年育成」「現代的課題」の3種類から、各センターで年間14講座程度開催。
なごやか市民教室	・令和元年度は80講座で受講生を募集し、50講座が開催され、16グループが成立。 ・平成29年度より、「講座紹介展」を、参加する市民にとって身近な各区の生涯学習センターまつりや公開講座、各区の区民まつりで派遣相談と一緒に実施するようになった。
市民協働講座	・平成24年度より年間1講座以上開催されている(継続)。

○ 「つながる」について

挙げられている事業	その移り変わり
自主学習グループ活動への支援	・利用者懇談会、作品掲示など、挙げられていた業務は、教育委員会が支援の指導・助言をしながら、指定管理者が進めている。
マイスターグループに対する活動・交流支援	・社会教育主事の業務(講座・事業の企画・運営、グループへの指導・助言など)と指定管理者の業務(フクロウの部屋の貸し出し・レターボックスの提供など)を分担して支援を行っている。
地域ふれあい実践講座	・当初の目的を一定程度達成することができたという理由から、平成28年度末をもって、事業を廃止

P T A家庭教育セミナー・親学アクション	・講師紹介は生涯学習系の社会教育主事(親学・女性グループ)が担当。講師紹介の手順も16区共通となった。 ・区ごとに行われていた区P T A家庭教育セミナーが、平成30年度から、区P T A合同情報交換会に変更。4区ずつ合同で開催。
区役所との連携	・平成30年度に、全区の生涯学習センターが直営から指定管理者による管理・運営に移行。所管が区から教育委員会に戻っても、これまでと同様に区政を反映した事業を展開するために、センター事業調整会議を行い、「区政運営方針等を踏まえた生涯学習センターの活用に関すること」「区内の生涯学習に関わる相互連携及び情報交換に関すること」などを協議するとともにセンター懇談会の議題について共通理解を図っている。

○ 「いかす」について

挙げられている事業	その移り変わり
生涯学習まつり	・企画・運営は指定管理者の業務に移行している。
自主学習グループ開設講座	・平成27年度に「名古屋市生涯学習センターにおける自主学習グループ開設講座の支援及び実施に関する要綱」が施行。講座開設を希望する自主学習グループに対して、会場の優先確保、講座案内などでの広報、講座の内容相談といった支援が明確にされるとともに、受講者のプライバシー保護の観点強化された。 ・講座の開設数や開設できる自主学習グループの条件などの詳細については、各生涯学習センターの実態に応じて取り決めがなされている。 ・社会教育主事は、その開講にあたって、受講料の妥当性や開催内容・日程などについて指定管理者に対して指導・助言していくことが必要となってきた。 ・「学習グループ情報カード」は5年に1度、一斉更新が行われており、最近では令和元年度から令和2年度にかけて実施している。
マイスター・ボランティアグループの活用	・マイスター・ボランティアグループの学習成果をなごや学や防災の講座などで還元できるように支援をしている。 ・令和元年度は前期13講座、後期13講座を実施し、グループの成果還元の機会を提供している。
なごやか市民教室の企画・運営	・N P O法人生涯学習ネットワーク中部が事務局として、市民講師の企画・運営を管理している。
市民協働講座の企画・運営	・〈なごや学マイスター講座〉は、各生涯学習センターで年度に1回以上実施。 ・その他、手話や託児、ボランティアグループ養成講座など、まちづくりに関わる団体と協働する機会が増えている。

(3) 本市の方向性

「第3期名古屋市教育局振興基本計画」から、人生100年時代に活躍し続けるためには、学んだ知識や成果を社会に還元できる機会の確保、生涯を通じた学びを支援していくことが重要であると言える。

生涯学習センターのあゆみを振り返ると、区役所所管の施設であった時期においても、指定管理者制度が導入され、教育委員会所管の施設となってからも、「まなぶ」「つながる」「いかす」を基本として、本市の生涯学習を推進してきたことが分かる。

講座・事業の移り変わりを見ていくと、「まなぶ」に関する事業については、講座を通して、学習機会を多く提供できるように努めてきた。その結果、市民のニーズに応じた内容、今日的な課題に対応した内容など、多岐にわたるようになった。

「いかす」に関する事業については、「まなぶ」事業で得た知識や技能を成果還元する機会を引き続き提供することによって、グループ支援をしている。また、指定管理者やNPOと連携して、役割分担をしながら取り組みを進めてきたと考える。

「つながる」に関する事業については、マイスターグループと公所や団体と連携を図って講座を行ったり、活動したりしてきた。具体的には、「アウトプット」の活動を行う場や機会、区の実情に即した内容を学ぶ機会を作り、「まなぶ」事業で得た知識や技能を成果還元できる機会の提供に努めてきた。

「つながる」については、「まなぶ」事業の後に、グループへの加入を働きかけ、学習によって得た知識や技能を成果還元する機会を作ることで、学習者の意欲を高め、学習成果還元活動の充実を図ってきた。また、グループ同士が交流する機会を作ることで、グループにとって学ぶ機会、学習成果還元活動の充実を図ってきた。

「まなぶ」段階から「いかす」段階に移行する際に「つながる」ことを学習者やグループに促していくことで、「いかす」活動が促進されると考える。

なお、「いかす」から「まなぶ」に戻り、学びと活動が循環する過程を考えることもできるが、その過程は学習を行う各個人によって異なり、多種多様な過程が想定されるため、本研究においては省略する。

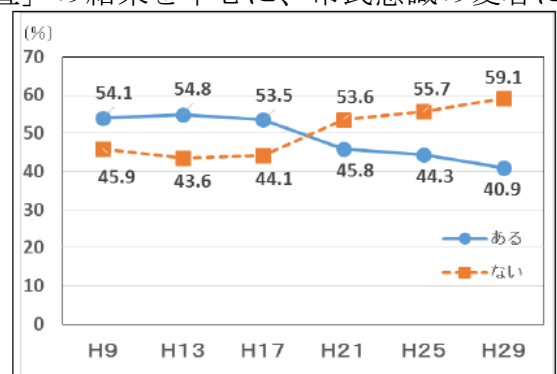
Ⅱ 本市の生涯学習の現状分析

1 市民意識の変容

平成29年度「生涯学習に関する市民意識調査」の結果を中心に、市民意識の変容について整理した。

(1) 「まなぶ」について

- 過去1年間に生涯学習を行ったことが「ある」と回答した市民の割合は、前回調査と比較すると、3.4ポイント減少している。前回調査と同様に50%を下回り、「ある」と「ない」の差が更に広がる傾向が見られた【図2】。



【図2 1年間の生涯学習の経験】

- 生涯学習を行った内容は、これまでの調査同様、「運動やスポーツ、レクリエーション」「趣味や教養」「心身の健康」が上位となっている。

そして、経年変化を見ていくと、「地域の魅力発見や活性化」「ボランティア活動」に関するものは前回調査と比べて増加している【図3】。

1年間に行った生涯学習の内容

	H9	H13	H17	H21	H25	H29
社会問題	11.4	9.7	10.7	9.2	13.5	10.1
地域の魅力発見や活性化			5.7	6.1	7.1	10.7
教育	6.5	3.5	7.6	7.6	17.1	12.8
ボランティア活動	13.2	8	9.7	8.5	12.4	15.6
趣味や教養	46.3	40.4	47.3	46.3	45.3	38.1
運動やスポーツ、レクリエーション	39.7	58.2	63.9	51.2	50.1	53.1
仕事や生活に役立つ知識や技能	23.3	19.5	23.1	21.9	18.7	17.1
スマートフォンやパソコンなどの活用		21.6	12.5	9.9	7.6	6.2
家庭生活に役立つ知識や技能	17.4	8.6	9.1	10.7	14.7	11.8
心身の健康	18.8	14	17.8	18.3	20.6	18
その他	5	1.6	3.2	4.7	3.7	1.9

【図3 1年間に行った生涯学習の内容の経年変化】

- 希望する生涯学習の内容においても、上位は「心身の健康」「趣味や教養」「運動やスポーツ、レクリエーション」で、前回調査と比べてほぼ同様の結果である。「地域の魅力発見や地域活性化」「ボランティア活動」は前回調査より増加している【資料9】。
- 関心のある地域課題については、前回調査同様、「防災」「地域の歴史・文化・自然」「環境」が上位となっている【資料10】。

(2) 「つながる」について

- 生涯学習を行った目的においては、「友達づくりや仲間づくり、交流」が前回調査と比べて大幅に増加している【図4】。

生涯学習を行った目的

	H9	H13	H17	H21	H25	H29
社会問題の解決				7	9.8	8.4
地域の魅力発見や活性化				5.8	9.5	12.4
家庭生活	14.8	12.3	12.8	15.1	18.7	21.8
学習成果	12.1	10.8	14.2	7.3	12.6	6.6
生きがい	63.8	39.4	45	39.6	41.6	41.3
教養	37.1	30	32.8	33	33.4	30.6
余暇		49	48.8	50.9	49.4	58
仕事	15	22.2	22.7	21.2	19.1	21.6
心身の健康	49.1	54	60.4	51.3	50.3	37
友達づくりや仲間づくり、交流	33.4	36.7	37.5	37	34.7	46.7
その他	3.4	2.7	14.2	4.1	3.5	3.2

【図4 生涯学習を行った目的の経年変化】

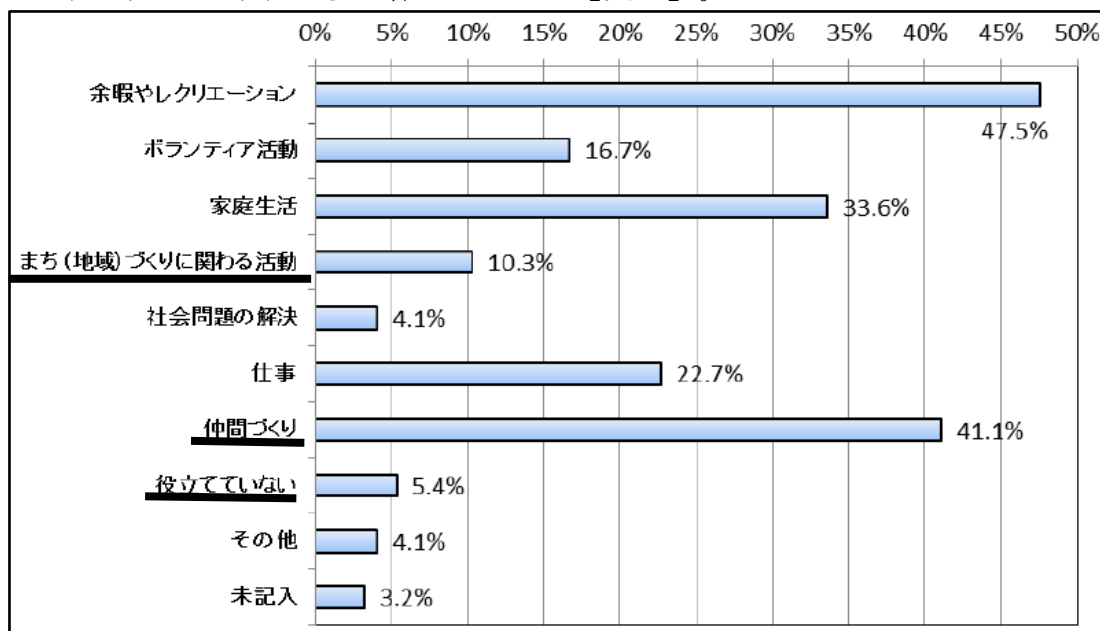
また、令和元年度のマイスター講座において、講座修了後のアンケートを調査すると、下記のような記述が見られる(太字・波線は加筆)。

- ・ マイスターの皆さん、いろいろとありがとうございました。皆さんの楽しそうな行動に刺激されました。港区に転入して2年、区民として知っておくことが当然として参加しました。今後更に努力します。(後期・港・名古屋港ガイドマイスター)
- ・ あじさいの手入れは大変なのだということがわかりました。少しでもお手伝いできればと思っています。(前期・千種・あじさいマイスター)

実際、港区のなごや学マイスター講座受講者は、受講後、マイスターグループに加入し、自ら現地に出かけて調査活動を行ったり、定例会において分かったことをグループメンバーに情報提供したりしている。これらの記述は、マイスターと「つながる」ことによって、「まなぶ」意欲や「いかす」意欲が高まった姿と考える。

(3) 「いかす」について

- ・ 生涯学習で得た知識や技能の役立て方は、「余暇やレクリエーション」「仲間づくり」「家庭生活」と回答した割合が上位を占めている。「まち(地域)づくりに関わる活動」は、前回調査と比較したところ、増加をしている(7.6%→10.3%)。「役立っていない」と回答した割合は、男性(6.0%→7.5%)、女性(3.8%→4.5%)ともに増加している【図5】。



【図5 生涯学習で得た知識や技能の役立て方】

- ・ 今後の学習成果の生かし方は、「地域の魅力発見や地域活性化」「子育て」と回答した割合が高いものの、前回調査からは減少、あるいは変化なしとなっている。また、「生かそうと思わない」と回答している市民が前回調査に比べて増加している(17.7%→21.0%)【次ページ図6】。

今後の学習成果の生かし方

	H21	H25	H29
社会問題の解決	18.6	20.8	14.5
地域の魅力発見や地域活性化	20.6	22.1	19.5
子育て	13.1	19.2	19.5
青少年育成や学校	10.4	14	8.2
土・日曜日や放課後における学校施設	20.3	10.6	10.7
趣味	39.9	39.5	35.8
生かそうと思わない	16.1	17.7	21
その他	4.4	3.9	6.5

【図6 今後の学習成果の生かし方の経年変化】

そして、「総合計画2023 成果指標 アンケート調査結果」（令和2年度）を見ると、「学んだ成果を社会に活かしている」と実感している市民の割合は、29.2%となっており、前年度よりポイントが上がってはいるものの、少ない状況であるとする【図7】。

○ あなたは、この1年間に、生涯学習に関する活動をしたことがありますか。

	有効 回答数	はい	いいえ	無回答
全体数	1561	568	987	6
割合	100.0	36.4	63.2	0.4

○ 「はい」と答えた方にお聞きます。あなたは、生涯学習で得た知識や技術をどのように活かしていますか。（あてはまるもの3つまで○）

	有効 回答数	自由時間を 有意義に過 ごす	社会参加やボ ランティア活 動を行う	身に付けたこと を伝えたり教え たりする	仕事の上で 役立てる	友達や仲 間をつくる	学習成果を 発表する	その他	活かして いない	無回答	学んだ成果を社会に 活かしていると実感 している市民の割合
全体数	568	333	79	150	162	243	37	19	24	0	456/1561
割合	100.0	58.6	13.9	26.4	32.0	42.8	6.5	3.3	4.2	0.0	29.2

【図7 生涯学習で得た学習成果の生かし方】

「生かそうと思わない」理由については、「生かし方が分からない」「生かす意欲がない」の2パターンが想定され、「いかす」ための手だてを講じる必要があるとする。

また、令和元年度のマイスター講座において、講座修了後のアンケート結果を調査すると、以下のような記述が見られる(太字・波線は加筆)。

- 私は多分歴史が好き。この年齢で参加することができたらうれしい。でも、知れば知る程勉強が必要。(後期・東・文化のみちマイスター)
- 伝統生活(暮らし方)、生きる力を学んで、なごや学マイスターとして活躍したい。(後期・北・北グルメマイスター)
- 体験、体感的要素が入り、映像のみだけではなく、自然について理解を深めることができました。(前期・名東・里山マイスター)

これらは、マイスターの「いかす」姿を見て、マイスターグループと「つながる」ことによって、次への「まなぶ」意欲が高まった姿、実際に「いかす」活動を行うことによって、新たな内容を学び取った姿と考える。

そして、令和元年度のなごやか市民教室のボランティア講師へのアンケート結果を調査すると、以下のような記述が見られる(太字・波線は加筆)。

- ・ 講師経験の場をいただき、普段接点をもてない世代の方と交流できてよかった。今回の内容を振り返り、今後の活動を考えていきたい。(西生涯)
- ・ 自分の教え方のつたなさを痛感。次回があるとしたら改善したい。(瑞穂生涯)
- ・ 皆さんが熱心に(絵を)描かれていたので、大変満足である。(東生涯)
- ・ 個人レッスンとは異なり、一人ずつのニーズに合わせていくことは難しかったが、良い経験となった。(東生涯)

これらは、ボランティア講師が「アウトプット」をしたことに対して、自己評価をすることで満足感や達成感を得た姿、「リフレクション」をしたことによって、課題を発見し、次の学びへの意欲が高まった姿と考える。

2 現状分析を振り返って

「生涯学習に関する市民意識調査」「総合計画2023 成果指標 アンケート調査結果」を見ていくと、「まなぶ」については、生涯学習を行っていない人が増えていることから、今後も市民のニーズに応える学習機会を提供していく必要がある。そして、「防災」「地域の歴史・文化・自然」「環境」など、市主催の講座内容とも合致している市民のニーズを反映し、「現代的課題」の講座や「なごや学」の講座として、その機会を設定してきたと考える。

また、「まなぶ」目的のひとつとして、「つながる」(交流する)ことを志向している人も存在することから、「つながる」ことを学習の手がかりとすること、つまり、手立てとすることも考えられる。

一方、本市において学習した内容を社会へ還元する「いかす」行動、すなわち「アウトプット」については、「生かそうと思わない」と回答している市民が増えている点を踏まえると、まだ不十分な点があり、更に手立てを講じる必要がある。

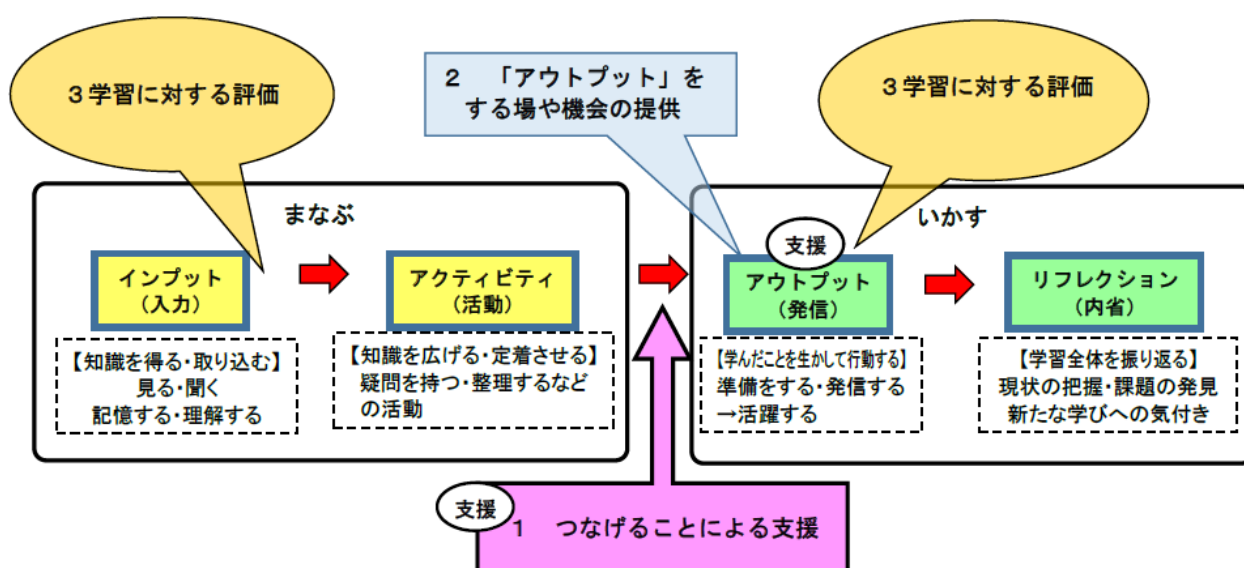
マイスター講座のアンケート調査やなごやか市民教室における講師アンケートの結果より、「アウトプット」をすることによって、「インプット」をすることに対する意欲が高まることが期待できると考えられる。

これらのことを踏まえると、今後は、「インプット」の場や機会の提供を継続するとともに、「アウトプット」をする場や機会をより多く提供できるようにしていくこと、「アウトプット」をしたいという意欲を高めることができるよう、手立てを講じる必要がある。

Ⅲ 本市生涯学習推進のための指針

国の動向、本市の動向及び現状分析より、人生100年時代に活躍し続けるためには、「まなぶ」で得た知識や経験を「いかす」（「アウトプット」する）ことで、社会において学習成果を還元し、活動への意欲を高めて、学びを継続していくことが重要となることが明らかになった。このことを踏まえると、「アウトプット」できる人を増やしていくことが、人生100年時代に活躍し続ける人を増やしていくことにつながると考える。

そこで、本研究では、「アウトプット」に着目し、本市生涯学習推進のための指針を提案していく。「アウトプット」できるようにするためには、「アウトプット」ができる見通しや意欲をもつことができるようにすること、「アウトプット」できる場や機会の提供を意図的に増やしていくことが必要である。「アウトプット」できる人を増やすために講じる手立てを、以下のように提案する【図8】。



【図8 学習の段階と講じる手立て】

1 つなげることによる支援

学習者が「つながる」ことによって期待できる効果は、次の2点であると考える。

- ・「アウトプット」に対する意欲の向上
- ・学習者の視野の広がり（学習や活動の方法の発見、学習環境の変化など）

「グランドデザイン」では、「まなぶ」段階から「いかす」段階へ移行する際に「つながる」段階を経ているが、「つながる」を経なくても「まなぶ」段階から「いかす」段階へ移行することは、可能である。しかし、「つながる」ことによって、「まなぶ」段階から「いかす」段階へ移行することがより促進されると考え、「つながる」を「手立て」として活用することを提案する。

本市では、これまで「つながる」というと、講座の受講者同士が関わることで学びを深めたり、受講者が既存の自主学習グループに加入することで学び続けたりするなど、「インプット」から「アクティビティ」への移行における「つながる」を指してきた。例えば、なごや学マイスター養成講座におけるマイスターグループへの加入を勧めたり、なごやか市民教室や生涯学習のきっかけづくりに関わる講座・事業において、自主学習グループの結成を呼びかけたりしてきたことなどが該当する。

この取り組みは今後も継続していくが、本研究で述べる「つなげることによる支援」とは、「アクティビティ」から「アウトプット」へ移行する段階において、人とグループ、あるいはグループとグループをつなぎ、お互いが双方向に作用して「つながる」ことを指している。この支援については、以下のような手立てが考えられる(具体案については、【資料11】を参照)。

(1) 他グループとの交流会の設定

例えば、自主学習グループやマイスターグループに対して、他のグループとの交流を提案することで、他グループの取り組みを知り、自らのグループの状況を確認したり、「アウトプット」に対する動機付けとなったりすることが期待できる。

現在、学習分野に関わらず隣接する区におけるマイスターグループの交流を推進しているが、今後は、「庄内川沿い」「東海道」「グルメ」というように、同じテーマで交流できる機会を作り、効果的な学びや生かし方が促進できるようにしていくことも考えられる。また、隣接区以外、遠く離れた他都市の学習グループとオンラインで交流する方法を設定していくことも提案したい。

(2) 講座・事業を通じた交流(企画時・打ち合わせ時)

例えば、防災ボランティアとグルメマイスターをつなげ、災害食の実習に関する事業を企画することを提案する。さらに、手話や要約筆記を学ぶグループと防災ボランティア・グルメマイスターをつなげ、聴覚障害のある方を対象とした防災事業を企画することを提案する。企画時、打ち合わせ時に、構想や役割分担についてグループ間で話し合うことで、新たな視点に気付いたり、「アウトプット」することへの意欲が向上したりすることが期待できる。

また、この取り組みは、次に提案する、「アウトプット」をする機会や場の提供と関連づけて、手立てを講じることもできると考える。

(3) 「アウトプット」に向けた研修会や学習会の開設とその後における交流

例えば、各区のマイスターグループに対して、研修会や学習会を設定し、「アウトプット」の際に必要な視点や話し方のコツを学習することで、伝え方に対する知識や技能を身に付けることが期待できる。

そして、マイスター同士が情報や意見を交換することで、事前の調整や準備物など、実際の「アウトプット」に即した内容を学ぶことが期待できると考える。

2 「アウトプット」をする場や機会の提供

「アウトプット」をする場や機会を提供することによって期待できる効果は、次の2点であると考えられる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・更なる「インプット」、次回の「アウトプット」に対する意欲の向上・「アウトプット」後、達成感や有用感、自信、あるいは課題の発見といった経験の獲得 |
|---|

現在、〈なごや学マイスター講座〉において、マイスターグループが「アウトプット」する場を提供したり、生涯学習センターまつりにおいて、自主学習グループ

が発表・展示したりする機会を提供してきている。

これまでの取り組みは今後も継続していくが、本研究では、これまでに提供していなかった、新しい形の「アウトプット」をする場や機会について、以下のような提供ができると考える(具体案については、【資料12】を参照)。

(1) 「名古屋土曜学習プログラム」における成果発表・成果還元

名古屋土曜学習プログラムは、今後も実施校を増やしていく計画で進めている。まずは、マイスターグループをはじめ、自主学習グループが複数集まり、ブース形式で学習プログラムを提供することによって、子どもを対象とした「アウトプット」の経験を獲得することが期待できる。この経験が次の「アウトプット」(他の小学校での名古屋土曜学習プログラムや、生涯学習センターにおける子どもを対象とした講座・事業など)にも生かされると考える。

そして、名古屋土曜学習プログラムを通して得た関わりを、学校支援の取り組みとして、学校における教育活動においても活用することが期待できる。

(2) 「小中学校における成果発表・成果還元」

「地域とともにある学校づくり」「社会に開かれた教育課程」について提唱がされており、教育課程を介して学校が社会や地域との接点をもつことが求められている。総合的な学習の時間における関わりや、家庭科・図画工作(美術)などの教科活動、クラブ活動の時間など、学校の要望に応じて、マイスターグループや自主学習グループが日頃の学習成果を発表・還元する機会を提供する。

小中学校における「アウトプット」は、年度内で複数回行ったり、年度をまたいで繰り返し行ったりすることが想定されるので、次の「アウトプット」に対する見通しをもったり、改善を試みたりすることで、学び続けようとする意欲を維持することが期待できる。

(3) 「生涯学習センター内における活動紹介」

これまでは、指定管理者事業としてロビーコンサートを活用したり、生涯学習センターにおける壁面やショーケースにて、掲示・展示したりする機会を設定し、マイスターグループ、自主学習グループに呼びかけてきた。

今後は、日頃の学習活動を動画や静止画として記録し、編集したものを生涯学習センターに設置されているモニターやSNSを通して発信したり、ポスターとして掲示したりするなど、グループのPRを兼ねて取り組むことも可能であると考えられる。

(4) 「生涯学習センター外における成果発表・成果還元」

マイスターグループ・自主学習グループの「アウトプット」する機会や場を、生涯学習センターの外にも広げていく。例えば、社会福祉施設や大型ショッピングモールでの発表や、社会教育団体の定例会やPTAにおける家庭教育セミナー、子ども会などのイベント、企業研修での講師活動、地下鉄の駅構内での展示などが挙げられる。

3 学習に対する評価

学習に対する評価によって期待できる効果は、次の2点であると考える。

- ・「まなぶ」「いかす」の各段階における意欲の向上
- ・学習履歴の可視化(自らの学習状況の把握、課題の発見)

従来、講座・事業においては、マイスターグループなどが講師を務めた場合、受講者からの受講後のアンケートという形で「アウトカム」に対する評価を得ている。受講後のアンケートは今後も継続していくが、本研究では、「インプット」から「アクティビティ」へ移行する意欲を高めるための評価と、「アウトプット」を行った後における評価をすることで、意欲を向上させたり、自らの学習状況や課題を発見したりできるようにする。例として、以下のような評価ができるようになる。

(1) インプットからアクティビティへの移行における評価

他都市に目を向けると、学習記録によって自己評価できるように手立てを講じている自治体も見られる【資料13】。本研究では、まず「インプット」を行っている市民に対して、どのような成果が得られたのかが分かるよう、自己評価の項目を工夫し、「アウトプット」することに対する意欲付けをすることが望ましいと考えた。

例えば、「学習手帳」と称して、講座を受けた月日や内容、どのようなことを学んだか、どのようなことに生かせそうかを記録できる一覧表を作成することが挙げられる【図9】。

年月日	講座の内容 (コマタイトル)	学んで印象に残ったこと	どのように生かす ことができそうか？
○年○月○日	〈なごや学〉 北区とその周辺の水辺 名古屋の水辺の環境と危機	名古屋の水辺の環境 があまりよくないこ とが分かった。	川をきれいにする取 り組みをしてみたい。
○年○月○日	〈なごや学〉 北区とその周辺の水辺 黒川の水辺を感じる	黒川の水辺にも環境 がよいところとよく ないところがあっ た。	今回講師をしている マイスターグループ から、その取り組み について聞きたい。
○年○月○日	※ この内容を基に、社会教育主事が次の学習の様子を 確かめ、学習終了後にマイスターグループへつなげたり、 グループへの入会を働きかけたりする。		

【図9 「学習手帳」の記入例、社会教育主事の支援の例】

学習内容や活用方法について記録をしていくことで、自分の学習履歴が視覚的に確認でき、「アウトプット」をする際の手がかりになると考える。

そして、博物館や科学館など他の教育施設とタイアップして、「学習手帳」が利用できる機会を増やしたり、一定のポイントに達したら、生涯学習センターまつりにおいて、館長による表彰を行ったりすることで、更なる「インプット」への動機付

けをすることが期待できる。

また、社会教育主事は、「学習手帳」の記述内容をもとに、マイスターグループや自主学習グループなどへつなぐことや次回の学びについて指導・助言することで、「アウトプット」することへの意欲付けをすることができると考える。

(2) 「アウトプット」を行った後における評価

「いかす」活動を行った市民に対する評価については、「アウトプット」することへの意欲を向上・持続し、「アウトプット」できる人を増やす観点から、「アウトプット」した結果に対する評価ではなく、「アウトプット」した行為に対する評価が望ましいと考える。

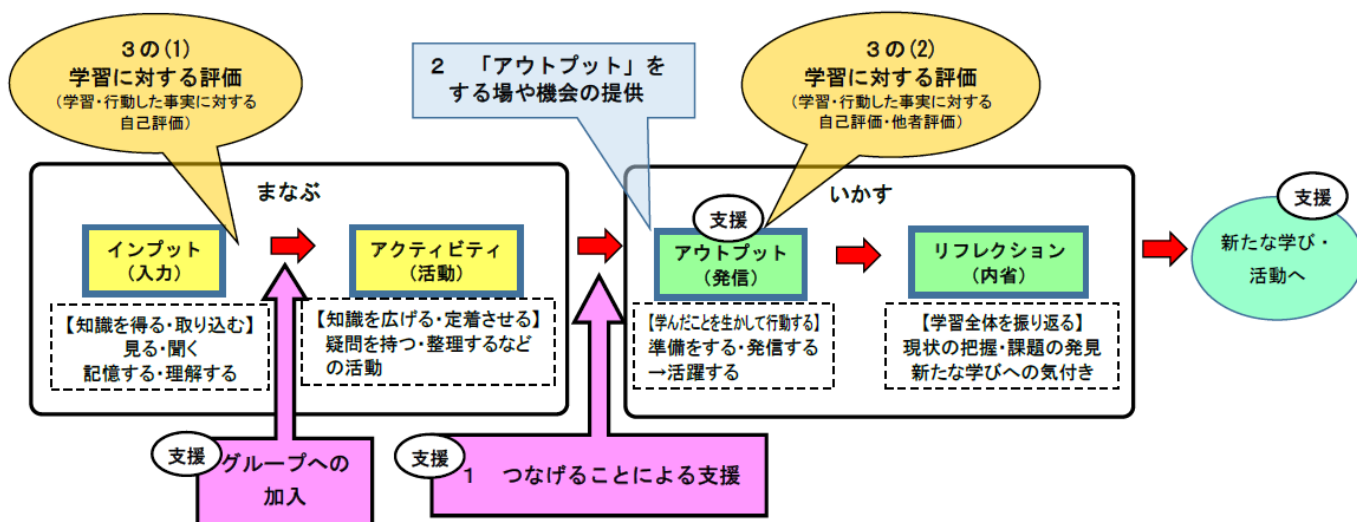
「アウトプット」に対しては、自己評価に加え、他者評価も可能であると考え。例えば、センターまつりでの展示物に対して、作者のメッセージも添えて展示を行い(自己評価)、そのメッセージに対して、参加者がコメントを書き込む(他者評価)ことが考えられる。また、〈なごや学マイスター講座〉における講師のガイド活動の振り返り(自己評価)に対して、社会教育主事が、受講者が記録した「学習手帳」の記述をもとに指導・助言をする(他者評価)ことなどができると考える。

おわりに

本研究では、「本市生涯学習推進のための指針」をテーマに、国や本市の動向がどのように変わってきたか、改めて調査・分析し、現状を踏まえ、以下の提案を行いました。

- ・ 人生100年時代に活躍し続けるためには、「インプット」と「アウトプット」を繰り返して、「学び続けること」が必要であること
- ・ 今後、本市の生涯学習は、「インプット」と同様に、「アウトプット」に重点を置き、「アウトプット」できる人を増やしていく方向で推進すべきということ
- ・ 学習者の思考の流れ、その流れに基づく行為を考慮し、「まなぶ」と「いかす」をそれぞれ「インプット・アクティビティ」「アウトプット・アウトカム」の2要素に細分化して捉えること
- ・ 学習者が「アウトプット」できるようにするには、以下の3点が大切であること
 - ① 「つなげる」ことを手立てとして活用する
 - ② 「アウトプット」する場や機会の提供を増やしていく
 - ③ 自己評価、他者評価による学習過程や学習成果を可視化する

本市生涯学習推進のための指針をフローチャートで示すと、次ページの図のようになります【次ページ図10】。



【図10 本市生涯学習推進のための指針】

「アウトプット」をすることで、学習者においては、学習意欲の向上や知識・技能の定着、「アウトプット」した相手との新たな関わりの創出が促され、更に学ぼうとする意欲が高まることによって、学び続けようとする事が期待できます。そして、グループにおいては、リーダーシップの涵養や活動の活性化、新たな会員の獲得など、現在のグループにおける課題の解決策につながる事が期待できます。このような好影響を通して、社会で活躍し続ける人を増やしていくことができると考えます。

今後は、実践を通して、「アウトプット」に着目した手立ての有効性を検証していくこと、「まなぶ」について更に考察を加えていくこと、評価の方法に対して更なる検討をしていくことが必要であると考えます。

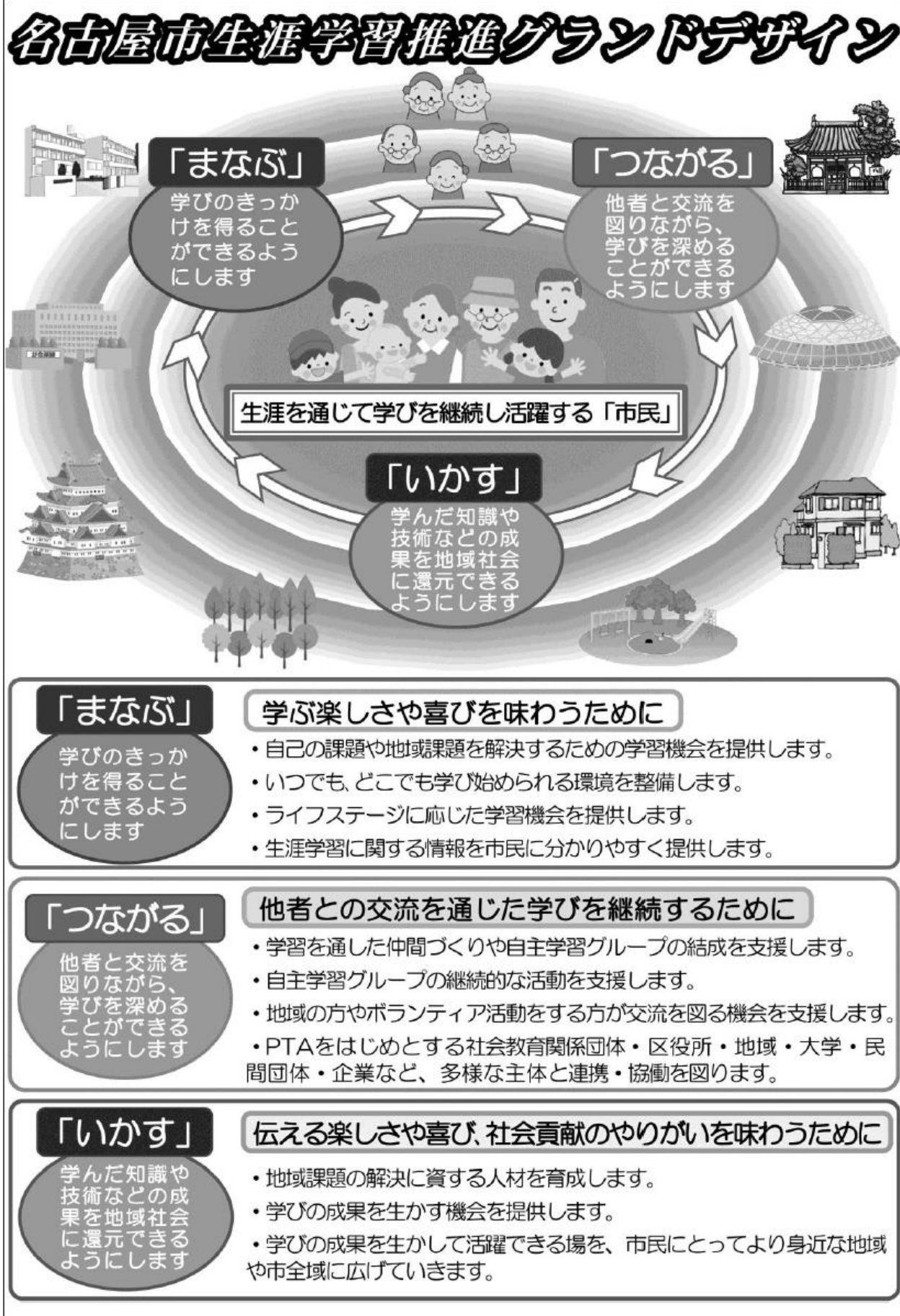
本研究を、今後の生涯学習推進のための方策を考える際の参考資料として、ご活用いただければ幸いです。

資料編 目次

【資料 1】	「名古屋市生涯学習推進グランドデザイン」	1
【資料 2】	「第 6 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」	2
【資料 3】	「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会 を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申）」	2
【資料 4】	「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策 について（答申）」	3
【資料 5】	「第 3 次教育振興基本計画」	3
【資料 6】	「第 10 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」	4
【資料 7】	「名古屋市教育振興基本計画」	5
【資料 8】	「第 3 期名古屋市教育振興基本計画」	5
【資料 9】	「生涯学習に関する市民意識調査」	6
【資料 10】	「生涯学習に関する市民意識調査」	6
【資料 11】	「つなげることによる支援」の具体例	7
【資料 12】	「『アウトプット』をする場や機会の提供」の具体例	8
【資料 13】	「学習記録に関する他都市の事例」	9

【資料 1】「名古屋市生涯学習推進グランドデザイン」

(平成27年度 名古屋市社会教育主事会)



【資料2】「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」

(平成25年 中央教育審議会)

○社会教育は、「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう」と定義され、地域住民の生活課題や地域課題に根ざして行われる各種の学習を教育的に高める活動ともいわれるものである。具体的には、社会教育は地域住民同士が学びあい、教えあう相互学習等を通じて、人々の教養の向上、健康の増進等を図り、人と人との絆を強くする役割を果たしている。これに加え、現代的・社会的な課題に関する学習など、多様な学習活動を通じて、地域住民の自立に向けた意識を高め、地域住民一人一人が当事者意識を持って能動的に行動（「自助」）するために必要な知識・技術を習得できるようにするとともに、学習活動の成果を協働による地域づくりの実践（「互助・共助」）に結びつけるよう努めることが求められている。

【資料3】「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申）」

(平成28年 中央教育審議会)

第Ⅲ章 今後の施策の方向性

「「学び」と「活動」の循環」の形成へ

【基本的視点】 生涯学習を通じて「全員参加による課題解決社会」を実現するため、①各種課題に対応する多様な学習機会を充実し、一人一人の可能性を高めていくこと、②学習した成果が適切に評価され、活用につなげられる環境を整備すること、を両輪で進めることにより、「**「学び」と「活動」の循環**」を形成していく。

①「学び」の場の整備・充実

- 地域課題の解決等における学習成果の活用のために必要なこと
学習機会提供者： 地域の課題や社会のニーズに対応した学習機会の充実
学 習 者： 学習成果の活用を意識した学習活動
- 学習者の利便性向上やネットワーク化のために、生涯学習におけるICTの活用を推進することも重要。

②「学び」と「活動」の橋渡し

- 学習成果の活用にあたっては、大学等の学位や国家資格等のほかに、様々な学習の成果が身近で適切に評価される環境の整備が重要。
⇒ 検定試験の活用： 検定試験によって培った能力を地域や企業・学校等で活用する取組の促進
⇒ 「人材認証制度」の活用： 様々な社会的課題の解決を目指す人材の育成・確保に寄与
- 学習者の学習履歴等を基に、効果的に地域等の「活動」につなげるとともに、更なる発展的な学習機会を提供し、新たな「学び」につなげることも重要。
⇒ 学習者・地域活動・学習機会をつなぐ役割を果たす人材（社会教育主事、地域コーディネーター等）の育成が必要となる。
⇒ ICTを活用した生涯学習プラットフォーム（仮称）： 学習と活動を効果的につなぎ、それらの活性化を図る。
- 個人と家庭、職場、学校、地域を総合的に捉えた生涯学習が一層進展することが期待される。

【資料4】「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」（平成30年 中央教育審議会）

＜「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策＞

1. 学びへの参加のきっかけづくりの推進

- ・ 楽しさをベースとした学びや地域防災、健康長寿など、関心の高い学び等、学びや活動のきっかけづくりを工夫
- ・ 子供・若者の参画を促し、地域との関わりの動機付けとなり得る成功体験づくり
- ・ 社会で孤立しがちな人に対して、福祉部局等との連携により、アウトリーチの取組を強化
- ・ 各地における具体的な取組の収集・共有、地域における活動の事例分析と周知

2. 多様な主体との連携・協働の推進

- ・ 首長部局との連携を効果的に図るため、総合教育会議の活用や、部局間の人事交流を推進
- ・ NPO、企業、大学等と行政関係者との積極的な意見交換や協議
- ・ 地域学校協働活動を核にした社会教育と学校教育の一層の連携・協働

3. 多様な人材の幅広い活躍の促進

- ・ 地域の課題解決等に熱意を持って取り組む多様な人材を社会教育の活動に巻き込み、連携
- ・ 教育委員会における社会教育主事の確実な配置、多様な主体による「社会教育士」の取得推奨

【資料5】「第3次教育振興基本計画」（平成30年 閣議決定）

3. 生涯学び、活躍できる環境を整える

（人生100年時代を見据えた生涯学習の推進）

- 人生100年時代においては、全ての人が生涯を通じて自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを生かして活躍できるようにすることが求められる⁵⁴。
- 今後、生涯にわたり必要な知識や技能、技術を学び、活用し、知的・人的ネットワークを構築し、人生の可能性を広げて新たなステージで活躍するというサイクルを実現し、人生を豊かに生きられる環境を整備することが不可欠となる。
- 生涯学習の推進に当たっては、若者から高齢者まで多様な世代が学び始めるきっかけづくりや学習成果の可視化、仲間とつながりながら楽しく学び、活動できる環境などの動機づけが重要である。

【資料 6】「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」

(令和2年 中央教育審議会)

2. 新しい時代の生涯学習・社会教育の広がりと充実に向けて

新しい時代の学びの在り方

- ・ いわゆる講義形式で知識をインプットする「学び」だけでなく、疑問を持ち、課題を見つけ、考えを発信し、他者と共に考え、新たな考えを創造するといったことも「学び」の重要な要素となる。
- ・ 様々な背景を有する多様な世代の人たちがつながり、共に学び合うことにより、新たなアイデアが生まれ課題解決につながることや、他者を理解し、受け入れ、共生する社会の実現につながることを期待される。
- ・ 新しい技術を活用した「オンラインによる学び」と「対面による学び」の組合せで学びが更に豊かなものになる。

「命を守る」生涯学習・社会教育

- ・ 新型コロナウイルス感染症や自然災害などの課題に対し、必要な知識を得たり課題解決に向けて共に学び合ったりする機会の充実は、あらゆる人々の「命を守る」ことに直結する。
- ・ 「誰一人として取り残さない」包摂的な社会の実現のため、様々な人たちに必要な学びの機会を設けることが重要。
⇒ 学びを通じて人々の生命や生活を守る「命を守る」生涯学習・社会教育という視点が今後ますます重要。

推進のための方策

学びの活動をコーディネートする人材の育成・活用

- ・ 社会教育士の取組事例や成果を具体的に紹介し、多様な場での活躍を促進していくこと。
- ・ 多様な人材が社会教育主事講習を受講できるよう、オンライン等による受講機会の確保などの条件整備が求められる。

新しい技術を活用した「つながり」の拡大

- ・ MOOCや放送大学などの積極的な活用をこれまで以上に推進していくこと。
- ・ 社会教育施設におけるICT環境の整備推進のため、既存財源の活用や企業との協同等の創意工夫を凝らした取組を促進すること。
- ・ デジタル・ディバイド解消のため、社会教育施設等でのICTリテラシーを身に付ける学習機会を充実すること。

学びと活動の循環・拡大

- ・ 生涯学習の分野におけるICT等を活用した学習履歴の可視化について推進方策を検討すること。
- ・ より多くの人たちが自主的に学びの活動に参画するような工夫として、ボランティア活動をポイント化し、それを地域での購買や学校等への寄附に利用できるようにするといった特色のある取組を推進していくこと。

個人の成長と社会の発展につながるリカレント教育の推進

- ・ 大学や専門学校等と産業界が連携した実践的な教育プログラムを開発・拡充すること。
- ・ 大学や専門学校等における遠隔授業のリカレント教育への活用を積極的に推進すること。

各地の優れた取組の支援と全国展開

- ・ 先進的な事例等のわかりやすい形での情報提供や、関係者がノウハウ等を共有する機会を充実すること。

【資料 7】「名古屋市教育振興基本計画」（平成27年 名古屋市教育委員会）

基本的方向 V

生涯を通じた学びの支援

目 標

市民が生涯を通じて学びを継続できるようにするとともに、その成果を生かし社会で活躍できるよう支援します。

施策 17

生涯学習の機会と場の提供・ネットワークづくりを進め、学ぶ楽しさや意欲を高めます

めざす姿	計画期間内に設定する目標
市民の多様なニーズに応えられる学習の機会や場が身近にある	生涯学習に関するさまざまな機会や情報を提供する

施策 18

学びの成果を社会に生かすことができるよう、支援します

めざす姿	計画期間内に設定する目標
生活の中に学びの成果を生かせる機会があり、自身の成長を実感できている	市の事業において、市民が学んだ成果を生かし関わりを持てる機会を提供する

【資料 8】「第 3 期名古屋市教育振興基本計画」（平成31年 名古屋市教育委員会）

施策16

生涯を通じて学び、社会で活躍し続けられるよう支援します

現状と課題

- 生涯学習センターにおける事業のうち、区の魅力・特色を活かしたまちづくりや防災に関する講座等の企画運営と自主学習グループ支援は、引き続き市が担当しています。
- 指定管理者(民間事業者)のノウハウを活用した事業展開をより一層進めること、また、高齢者が中心となっている利用者層の拡大が、課題となっています。
- 生涯学習の機会・場の提供にとどまらず、学んだ知識や成果を社会に還元できる機会の確保に努め、生涯を通じた学びを支援していくことが重要です。

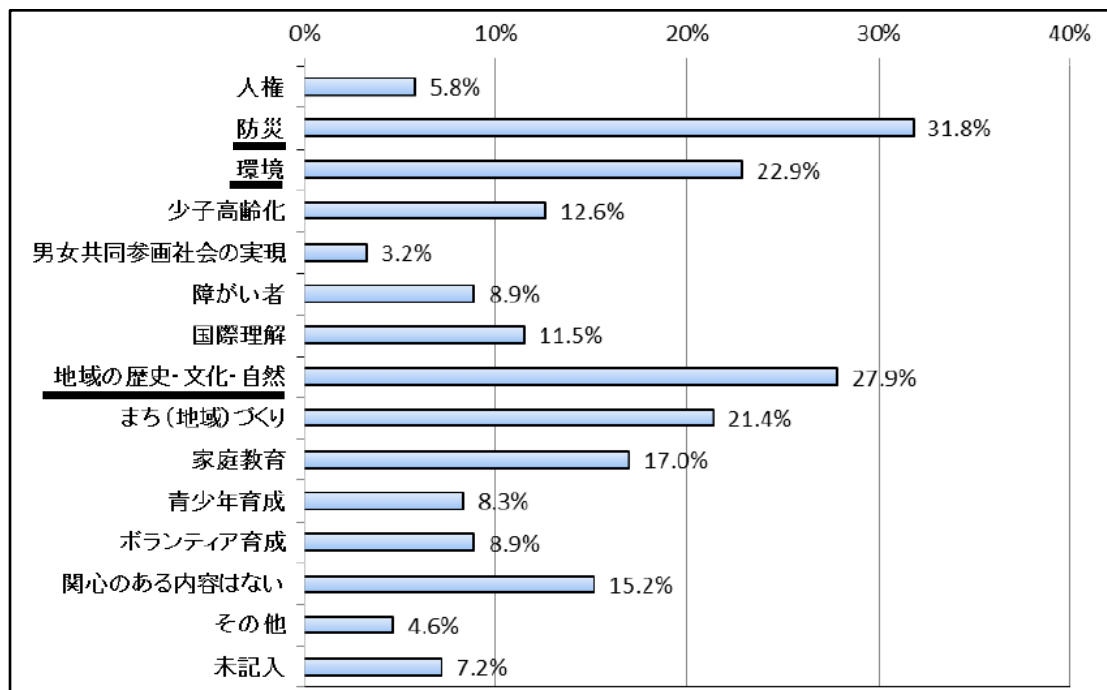
【資料 9】「生涯学習に関する市民意識調査」
 (平成 9 ～ 29 年 名古屋市教育委員会生涯学習課)

「希望する生涯学習の内容」の経年変化

	H9	H13	H17	H21	H25	H29	
社会問題	21.5	18.8	15.2	10.9	16.1	12.4	
地域の魅力発見や活性化			9.5	12	13.1	13.9	増加
教育	7.5	8	9.5	9.6	17.3	13.6	
ボランティア活動	16.2	13	5.1	4.5	9.4	13.5	増加
趣味や教養	41.9	46.7	49.2	48.2	52.2	40.2	上位
運動やスポーツ、レクリエーション	31.5	41.6	44.1	36.3	39.8	38.8	上位
仕事や生活に役立つ知識や技能	17.1	22.9	21.3	20.8	23.8	23.6	
スマートフォンやパソコンなどの活用		24.6	21.4	15	13.7	14.5	
家庭生活に役立つ知識や技能	13.6	21.6	23.1	24.2	32.6	29.2	
心身の健康	45.1	38.8	40.4	37.1	43.3	45.6	上位
その他	1.7	1.3	1.9	3.5	3.7	5.3	

【資料10】「生涯学習に関する市民意識調査」
 (平成29年 名古屋市教育委員会生涯学習課)

問 12 あなたがお住まいの地域において、関心のある学習内容を選んでください。
 (複数回答)



【資料11】「つなげることによる支援」の具体例

(1) 他グループとの交流会の設定

- 黒川・堀川沿い…黒川マイスターと碁盤割マイスターとの交流会
- 東海道 …港史跡マイスターと熱田史跡マイスターとの交流会
あるいは、豊明・知立・刈谷の史跡研究会との交流会
- グルメ …瑞穂スイーツマイスターと東グルメマイスターとの交流会
- 古墳 …守山歴史の里マイスターと春日井市の史跡研究会との交流会

(2) 講座・事業を通じた交流（企画時・打ち合わせ時）

- 防災ボランティアとグルメマイスターとをつなげた、災害食の実習事業
 - ・ 防災ボランティアは、災害時に備えた備蓄品についての学習を担う。
 - ・ グルメマイスターは、備蓄品を用いた料理についての実習を担う。→手話グループ・要約筆記のグループを巻き込み、聴覚障がい者に対しても学習機会を提供する。
- 歴史・自然マイスターグループと図書館とをつなげた、散策学習会
 - ・ マイスターグループは、散策のガイド役を担う。
 - ・ 図書館は、散策に関する図書を用意して、調べ学習ができる環境を整える。→散策が先か、調べ学習が先かについては、グループと図書館で打ち合わせを行う。
⇒パソコンボランティアグループを巻き込み、散策や調べ学習で学んだ内容を「ウィキペディア」へ掲載する。
- グルメマイスターグループと写真の自主学習グループをつなげた、スイーツ撮影会
 - ・ グルメマイスターは、見た目にもこだわった料理・スイーツ作りの学習を担う。
 - ・ 写真の自主学習グループは、撮影の仕方についての学習を担う。

(3) 「アウトプット」に向けた研修会や学習会の開設とその後における交流

- ラジオアナウンサーを講師に招き、伝え方・話し方の学習を行う。
→マイスターグループ・自主学習グループが用意した「ガイド原稿」を読んで、内容を伝え合う活動を行う。
⇒後半は、ガイド（説明）をする際に気を付けていること、心がけていることについて情報交換を行う。
- 料理研究家を講師に招き、メニュー開発に関わる実習を行う。
→複数のマイスターグループ・自主学習グループが分散して実習を行うようにする。
⇒後半は、グループが開発しているメニューを紹介し合い、トッピングや調理方法などについて意見交換を行う。

【資料12】『アウトプット』をする場や機会の提供」の具体例

※（ ）の数字は、本編P.14の項目と対応

(1) 「名古屋土曜学習プログラム」における成果発表・成果還元

- 大正琴自主学習グループによる演奏体験学習
 - ・ 大正琴の演奏（デモンストレーション）を視聴
 - ・ 大正琴の仕組みや音符の読み方について学ぶ
 - ・ 大正琴の演奏体験
 - ・ 演目の発表会
- 太極拳自主学習グループによる演舞体験学習
 - ・ 太極拳の歴史について学ぶ
 - ・ 太極拳の型（デモンストレーション）を視聴
 - ・ 太極拳の型の演舞体験
 - ・ 学習した型を全員でおさらいする
- 絵画自主学習グループによる似顔絵体験学習
 - ・ 提示された歌手・俳優・スポーツ選手の似顔絵の作品による、顔当てクイズ
 - ・ 似顔絵を描くときのポイントの学習
 - ・ ペアになって、似顔絵の体験
 - ・ 自主学習グループからの評価をいただく（特徴をよく捉えている部分を中心に）

(2) 小中学校における成果発表・成果還元

- 総合的な学習の時間において
 - ・ 各区の歴史マイスターグループによる地域の歴史散策
 - ・ 各区の自然マイスターグループによる地域の自然散策や動植物の調査体験
- 教科活動において
 - ・ 家庭科 …グルメマイスターグループによる、おやつ作りの学習支援
 - ・ 図画工作（美術）…絵画の自主学習グループによる、デッサン・スケッチの学習支援
- クラブ活動において
 - ・ 琴・尺八などの楽器演奏体験
 - ・ 卓球の自主学習グループによる活動支援
 - ・ 手品の自主学習グループによる活動支援

(4) 生涯学習センター外における成果発表・成果還元

- 社会福祉施設 …老人ホーム・デイケアセンターにおける合唱や演奏の活動
- PTAにおける家庭教育セミナー …グルメマイスターグループによる防災食
- 子ども会のイベント …手品の自主学習グループによる実演・簡単な手品の紹介
- 企業研修での発表 …旅行会社やバスガイドの研修において、歴史マイスターグループが講師となり、名古屋の歴史の魅力の紹介やツアールートの提案を行う。
- 地下鉄の駅構内での展示 …展示スペースだけでなく、階段のステップに自主学習グループの俳句や短歌、標語、絵手紙を展示し、装飾や啓発の役目を担う。

【資料13】 「学習記録に関する他都市の事例」

○ 京都市「京（みやこ）まなびパスポート」（京都市生涯学習課ホームページより）

学びの成果が認められる社会づくりに向けて

- ・ 市民の皆様が生涯にわたり意欲的に学びを深め、個性を生かした多様な生き方が可能となる社会を築くためには、学歴だけでなく様々な学びの成果が社会全体に広く認められ、適切に評価・認証されることが必要です。
- ・ そこで、自ら課題を持って学習し、その学習成果を活かしてボランティア活動や地域活動に取り組まれた方を、「京まなびパスポート」の記録に応じて認証・表彰することを通じて、学習している一人ひとりが輝きを放つ社会づくりを進めています。

「京（みやこ）まなびパスポート」の使用方法

1 「京まなびパスポート」を入手する

- ・ 教育委員会事務局生涯学習部で配布しています。ご希望の方には、郵送もさせていただきますので、下記お問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。
- ・ 京都市内にお住まいの方、通勤・通学されている方、その他京都での学びを希望される方であればどなたでもお使いいただけます。

2 学びを記録する

- ・ これまでの学習活動を振り返り、学習目標や計画を立てます。
- ・ 学習計画に応じて、講座を受講したり、ボランティア活動などを行います。学習・活動した内容や感想などを「京まなびパスポート」に記録していきます。

3 認定書をもらう

- ・ 100まなび（1冊分）を修了したら、学習を通じて得たことや感想などを記入して、事務局に郵送してください。
- ・ 修得した「まなび」の数に応じて、単位認定書を交付します。
- ・ 累計で「400 まなび」に達した方には、「京まなび賞」を交付します。なお、学びの時間は問いません。1つの学びの行動を1回＝1まなびと認定します。（学校の授業など、学校教育に含まれるものは除きます。）

【学習記録を行うページ】

4 活用する

- ・ 学習活動を振り返り、新たな学習活動の発見につなげます。
- ・ 就職活動などにおける自己PR資料として活用してください。

「京まなびパスポート」には何を記録したらいいの？

下記のような学びを記録してください。

- ・ 各種講座、講演会、教室等への参加
- ・ 博物館、美術館、体験施設などの見学、利用
- ・ ボランティア活動、地域活動への参加
- ・ ビデオコンテンツ、インターネットなどの動画鑑賞による学習
- ・ 学んだ成果を活かすための活動
(例：学んだ内容を地域活動や子どもたちの指導をして実践した場合など)



【パスポート認定証】

○ 東広島市「生涯学習パスポート」 （東広島市生涯学習課ホームページより）

発行の目的

市全体を学びのキャンパスとするために学習者の学習意欲の向上や学習成果の活用につなげること、また、その活用を評価するために、学習や活動歴などが記録できる生涯学習パスポートを発行します。生涯学習パスポートは登録不要、無料でご利用いただけます。

生涯学習パスポートの種類

入門編となる「エントリー用パスポート」と、入門編を達成した方向けの「エキスパート用パスポート」の2種類があります。

ステップ	名称	表紙の色	記録できるポイント
1	エントリー用パスポート	白	1ポイント～25ポイント
2	エキスパート用パスポート	ピンク、オレンジ、紺	26ポイント～200ポイント

主な配布場所

エントリー用パスポートは、次の場所で配付しています。エキスパート用パスポートは、エントリー用を達成した方のみ、生涯学習課にて発行します。

- ・ 東広島市教育委員会生涯学習課
- ・ 東広島市生涯学習（支援）センター
- ・ 東広島市地域センター など

ポイント

対象となる学習に対して、実施時間に関わらず1回1ポイントを付与します。（同日中の同じ講座（午前の部、午後の部など）は合わせて1ポイントまでとします。）

ポイントの溜め方

【対象となる学習】にある講座を受講する場合には、あらかじめパスポートに受講する講座の日付と講座名を記入し、講座の受付にパスポートを提示し、「まなぶちゃんスタンプ」を押印してもらってください。対象となる学習は、「学習メニューブック」の「学びの記録1」に掲載されている講座になります。

具体的な講座内容は次のものになります。

1. 生涯学習推進に関する協力団体が提供する講座
2. 出前講座
3. 生涯学習（支援）センター、地域センターが主催する講座
4. 生涯学習フェスティバルへの参加

なお、記録対象となる講座では、受付等にて、対象となることを示すポスターが掲示されます。（掲示がない場合は、主催者（スタッフ等）に確認してください。）生涯学習パスポートを活用し、規程のポイントが溜まったら、生涯学習課へ提出してください。賞状と副賞（シルバー賞以上）を授与します。

- ・ 奨励賞の名称：まなびすと賞
- ・ 各賞の名称と達成ポイント
 - (1) ブロンズ賞 25ポイント
 - (2) シルバー賞 50ポイント
 - (3) ゴールド賞 100ポイント
 - (4) プラチナ賞 150ポイント
 - (5) ダイヤモンド賞 200ポイント

**本市生涯学習推進のための指針
～人生100年時代に活躍し続けるために～**

発行年月 令和3年3月

発行部数 110部

発 行 名古屋市教育委員会
生涯学習部生涯学習課

〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目1番4号

Tel 052-950-5031

Fax 052-950-5041